

◎注意事項をよくお読み下さい



りそな 経済フラッシュ

(ECB <欧州中央銀行> 理事会)

〇概況

- ◆ 今回の理事会は、政策金利を据え置いた一方で、パンデミック緊急資産購入プログラムは規模拡大及び期間延長、TLTRO-Ⅲは期間延長及び条件の緩和を実施
- ◆ ラガルド総裁の会見では、足元のユーロ高について動向を注視するとしたがユーロ高けん制は限定的。

✓ 12月10日に開催されたECB（欧州中央銀行）理事会では、**中銀預金金利は▲0.50%、主要リファイナンス金利は0.00%、中銀貸出金利は0.25%**で据え置いた一方、**パンデミック緊急資産購入プログラム（PEPP）の規模拡大と期間の延長及びTLTRO-Ⅲ（条件付き長期リファイナンスオペ）の期間延長と条件の緩和**を行った。

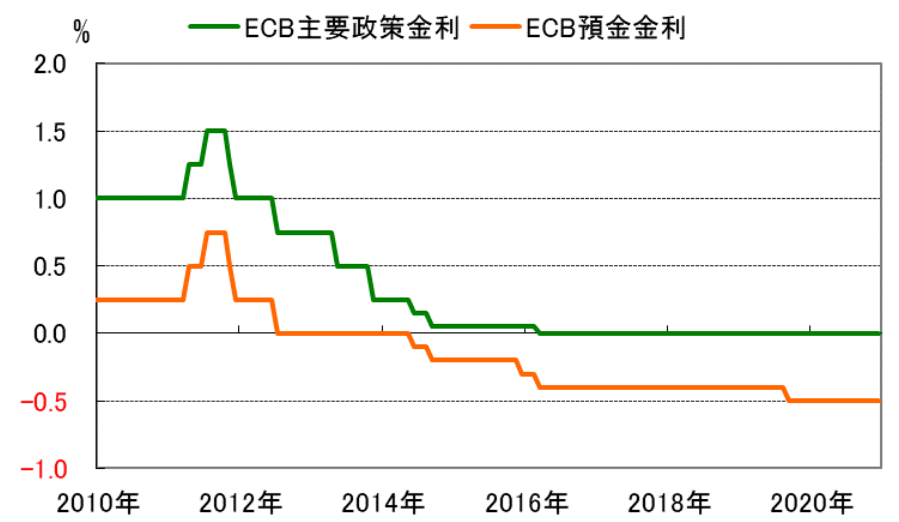
✓ またフォワードガイダンス（将来の金融政策方針）については、「**インフレ目標の実現がしっかりと見通せるまで**」を据え置き。

✓ **PEPPについては、規模を5,000億ユーロ拡大、総額1兆8,500億ユーロとした。また同プログラムの期間を9か月延長し、2022年3月までとした。再投資期間についても1年間延長し2023年12月末へ変更。**ただし、市場では5,000億ユーロ拡大、6か月延長をコンセンサスとしており、規模は同じながら期間がより長期に延長されたことで月々の買入ペースが鈍化するとややネガティブに受け止められた。

✓ 金融機関の貸出を促進する目的である**TLTRO-Ⅲ（条件付き長期リファイナンスオペ）については、優遇金利の水準に変更ないが期間を1年間延長し2022年6月までとし、新たに21年6月から12月末までに3本のオペを追加した。また、金融機関の借入条件の緩和を行った。**

✓ ラガルド総裁は理事会後の会見で、今回規模が拡大された**PEPPについて使い切る必要はないものの、新型コロナウイルスの影響に応じて購入額を調整することが可能とした。また、足元のユーロ高については、為替レート**の目標はないもののユーロの動向には注視しているとし、ユーロ高けん制の動きは限定的だった。

【ECB政策金利と預金金利】



【ECBスタッフ見通し（12月時点）】

	2020年	2021年	2022年	2023年
実質GDP成長率	▲7.3	+3.9	+4.2	+2.1
9月時点の見通し	▲8.0	+5.0	+3.2	
HICP(消費者物価)	+0.2	+1.0	+1.1	+1.4
9月時点の見通し	+0.3	+1.0	+1.3	

前年比、%

【出所】ECB、Bloomberg

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。